

# 令和3年度オープンレクチャー（調査・研究成果の公開）<sup>(シ08)</sup>

**研究組織** 小林達朗、小野真由美、塩谷純、二神葉子、小林公治、江村知子、橘川英規、安永拓世、小山田智寛、米沢玲、吉田暁子、黒崎夏央（以上、文化財情報資料部）

**目 的** 文化財情報資料部の研究成果の一部を外部講師を交えて広く一般に公開する。

## 成 果

1. 2021（令和3）年11月5日、専門家はもとより広く一般からも聴講者を募集し、オープンレクチャー「かたちを見る、かたちを読む」を開催した。研究所内部より2名の講演を行った。

それぞれの講演テーマは次の通りである。

- 小林達朗（東京文化財研究所文化財情報資料部 日本東洋美術史研究室長）  
「皆金色阿弥陀絵像の出現とその意味－転換期の時代思潮の表象」
- 安永拓世（東京文化財研究所文化財情報資料部 主任研究員）  
「香川・妙法寺の与謝蕪村筆「寒山拾得図襖」－画像資料を活用した復元的研究－」

2. 外部からの聴講者は新型コロナウイルス感染症予防に鑑み、抽選制とし、35名の参加を得た。参加者からのアンケート結果では、参加者の85パーセントから「満足した」「おおむね満足した」との回答を得ることができた。



第55回オープンレクチャーの様子